

お茶で心身癒やして

県立大の被災地の大学に寄贈 木苗学長



発送のため茶と茶製品を準備する木苗学長
—静岡市駿河区の県立大

県立大(静岡市駿河区)の木苗直秀学長(68)は、東日本大震災の被災地支援として若手、宮城、福島3県の公立大に、県内産の茶と茶製品を贈った。食品栄養が専門の木苗学長は茶の健康効果を研究中で、「被災地の方々にお茶で心身を癒やしてほしい」と願っている。贈り先は若手県立大、

宮城大、会津大、福島県立医科大の4公立大。独自に放射性物質の検査をして安全性を確認した緑茶のティーパック5千個と、賛同した望月茶館(静岡市葵区)が提供した抹茶あめ10袋、抹茶よつかん60本を段ボールに詰め6月中旬から各大に発送した。

贈り先の大学からは「学生とありがたかったです」「避難所の懇談会で地域の人にめしあがってもらいます」などと

と礼状が届いた。木苗学長は「実験により、茶には放射線の影響を抑制する効果があることを突き止めた。茶の健康効果のPRにもつなげたい」と話している。